

企画展

「アマゾンの生き物文化」

野生のサルや鳥などをペットにして飼い慣らすなど、地球最大の熱帯林を持つアマゾンの生き物と人とのかかわりを紹介します。

会期 8月13日(火)まで
会場 企画展示場A

■関連イベント

◆ギャラリートーク

13日(土) 中川哲男 (天王寺動物園 元園長)
14日(日) 池谷和信 (民博 教授)

27日(土) 山口吉彦 (アマゾン民族館 館長)
28日(日) 小宮輝之 (上野動物園 元園長)

【8月】

3日(土) 中牧弘允 (吹田市立博物館 館長)
10日(土)・11日(日) 池谷和信 (民博 教授)

各日 13時～13時30分
会場 企画展示場A

※申込不要、参加無料、要観覧料

◆ワークショップ

「夏のアマゾン探検隊」

夏の自由研究はこれで解決！企画展「アマゾンの生き物文化」の展示場を熱帯雨林に見立てて探検し、フィールドワークに挑戦します。

日時 7月26日(金) 10時30分～16時
(受付10時から)

対象 小学4年生～6年生

※事前申込制(先着20名)、参加費500円

お申し込み・お問い合わせ先

情報企画課「夏のごもワークショップ」係

workshop@idc.minpaku.ac.jp

◆トークイベント

「鳥の羽根 いろいろどい」

館内・館外の研究者が、世界の鳥の羽根についてお話しします。

日時 7月27日(土) 14時～16時
場所 本館展示場(ナヒひろば)

企画展

「武器をアートに」

「モザンビークにおける平和構築」

モザンビークでは、内戦終結後に回収した武器でアートの作品を作り出すという事業が進んでいます。アートを通じて平和を築く営みを紹介します。

会期 7月11日(木)～11月5日(火)
会場 企画展示場B

■関連イベント

◆国際ワークショップ

「武器をアートに」モザンビークにおける平和構築の営みを考える」

日時 7月13日(土) 13時30分～16時30分
会場 本館第4セミナー室

みんなくワールドシネマ

「ごめ帰ろつ、ペダルをこいで」

共産党政権下から民主化へ、時代の波に翻弄され、引き裂かれたブルガリア人の祖父と孫の再会を通して、家族の在り方とその未来を皆さんとともに考えていきたいと思います。

日時 7月13日(土) 13時30分～16時30分
(開場13時)

会場 講堂(先着450名)

※申込不要、参加無料

※当日10時から講堂入口にて整理券を配布

研究フォーラム

「金融のなかの贈与」金融と人類学の交差点

日時 7月14日(日) 10時30分～16時15分
会場 本館第4セミナー室(定員70名)

※申込不要、参加無料

博学連携教員研修ワークショップ2013 in みんなく

「学校と博物館をつくる国際理解教育」

「センセイもつくる・あそぶ・おどる」

本館を活用した国際理解教育の実践事例の紹介やワークショップを通して、国際理解教育における博学連携の意義や可能性について考えます。

日時 8月6日(火) 10時20分～17時

みんなくはなミナール

第422回 7月20日(土)

会場 国立民族学博物館 講堂

時間 13時30分～15時(13時開場)

定員 450名(当日先着順)

参加費 無料(展示をご覧になる方は、観覧料が必要です)

第423回 8月17日(土)

会場 国立民族学博物館 講堂

時間 13時30分～15時(13時開場)

定員 450名(当日先着順)

参加費 無料(展示をご覧になる方は、観覧料が必要です)

第422回 7月20日(土)

会場 国立民族学博物館 講堂

時間 13時30分～15時(13時開場)

定員 450名(当日先着順)

参加費 無料(展示をご覧になる方は、観覧料が必要です)

第423回 8月17日(土)

会場 国立民族学博物館 講堂

時間 13時30分～15時(13時開場)

定員 450名(当日先着順)

参加費 無料(展示をご覧になる方は、観覧料が必要です)

第422回 7月20日(土)

会場 国立民族学博物館 講堂

時間 13時30分～15時(13時開場)

定員 450名(当日先着順)

参加費 無料(展示をご覧になる方は、観覧料が必要です)

第423回 8月17日(土)

会場 国立民族学博物館 講堂

時間 13時30分～15時(13時開場)

定員 450名(当日先着順)

参加費 無料(展示をご覧になる方は、観覧料が必要です)

第422回 7月20日(土)

会場 国立民族学博物館 講堂

時間 13時30分～15時(13時開場)

定員 450名(当日先着順)

参加費 無料(展示をご覧になる方は、観覧料が必要です)

第423回 8月17日(土)

会場 国立民族学博物館 講堂

時間 13時30分～15時(13時開場)

定員 450名(当日先着順)

参加費 無料(展示をご覧になる方は、観覧料が必要です)

友の会

友の会講演会(大阪)

会場 国立民族学博物館 第5セミナー室

定員 96名(当日先着順、会員登録必須)

第422回 8月3日(土) 14時～15時

「新日本の文化展示関連」

日本の森とミツバチと人

講師 池谷和信(国立民族学博物館 教授)

日本の文化展示では、長崎県対馬を事例にして現在の日本の養蜂を新しく紹介しています。対馬では大木をくりぬいて作るハチドウを用いた伝統的な方法で、野生のニホンミツバチから蜜を集めています。蜂の来訪を待つだけでなく、群れを誘導したり巣を移植したりもします。日本の里山のしくみに養蜂がいかに結びついているのか、世界各地の養蜂の事例と比較しながらお話しします。

第423回 9月7日(土) 14時～15時

「みんなくコレクションを語る」

カチーナ人形の作り手たち

講師 伊藤敦規(国立民族学博物館 助教)

カチーナ人形はアメリカ先住民のホビの人びとが儀礼で用いる木製の人形です。みんなくは1980年前後に283点を収集しましたが、資料情報がたいへん限られている状態です。人形の台座に記されたサインを手がかりに、制作者本人や親族を探し出すことができました。将来的にはインタビュー調査を行う予定です。人形資料を紹介した「もの語り」の可能性についてお話しします。

第422回 8月3日(土) 14時～15時

「新日本の文化展示関連」

日本の森とミツバチと人

講師 池谷和信(国立民族学博物館 教授)

日本の文化展示では、長崎県対馬を事例にして現在の日本の養蜂を新しく紹介しています。対馬では大木をくりぬいて作るハチドウを用いた伝統的な方法で、野生のニホンミツバチから蜜を集めています。蜂の来訪を待つだけでなく、群れを誘導したり巣を移植したりもします。日本の里山のしくみに養蜂がいかに結びついているのか、世界各地の養蜂の事例と比較しながらお話しします。

第423回 9月7日(土) 14時～15時

「みんなくコレクションを語る」

カチーナ人形の作り手たち

講師 伊藤敦規(国立民族学博物館 助教)

カチーナ人形はアメリカ先住民のホビの人びとが儀礼で用いる木製の人形です。みんなくは1980年前後に283点を収集しましたが、資料情報がたいへん限られている状態です。人形の台座に記されたサインを手がかりに、制作者本人や親族を探し出すことができました。将来的にはインタビュー調査を行う予定です。人形資料を紹介した「もの語り」の可能性についてお話しします。

第422回 8月3日(土) 14時～15時

「新日本の文化展示関連」

日本の森とミツバチと人

講師 池谷和信(国立民族学博物館 教授)

日本の文化展示では、長崎県対馬を事例にして現在の日本の養蜂を新しく紹介しています。対馬では大木をくりぬいて作るハチドウを用いた伝統的な方法で、野生のニホンミツバチから蜜を集めています。蜂の来訪を待つだけでなく、群れを誘導したり巣を移植したりもします。日本の里山のしくみに養蜂がいかに結びついているのか、世界各地の養蜂の事例と比較しながらお話しします。

第423回 9月7日(土) 14時～15時

「みんなくコレクションを語る」

カチーナ人形の作り手たち

講師 伊藤敦規(国立民族学博物館 助教)

カチーナ人形はアメリカ先住民のホビの人びとが儀礼で用いる木製の人形です。みんなくは1980年前後に283点を収集しましたが、資料情報がたいへん限られている状態です。人形の台座に記されたサインを手がかりに、制作者本人や親族を探し出すことができました。将来的にはインタビュー調査を行う予定です。人形資料を紹介した「もの語り」の可能性についてお話しします。

第422回 8月3日(土) 14時～15時

「新日本の文化展示関連」

日本の森とミツバチと人

講師 池谷和信(国立民族学博物館 教授)

日本の文化展示では、長崎県対馬を事例にして現在の日本の養蜂を新しく紹介しています。対馬では大木をくりぬいて作るハチドウを用いた伝統的な方法で、野生のニホンミツバチから蜜を集めています。蜂の来訪を待つだけでなく、群れを誘導したり巣を移植したりもします。日本の里山のしくみに養蜂がいかに結びついているのか、世界各地の養蜂の事例と比較しながらお話しします。

第423回 9月7日(土) 14時～15時

「みんなくコレクションを語る」

カチーナ人形の作り手たち

講師 伊藤敦規(国立民族学博物館 助教)

カチーナ人形はアメリカ先住民のホビの人びとが儀礼で用いる木製の人形です。みんなくは1980年前後に283点を収集しましたが、資料情報がたいへん限られている状態です。人形の台座に記されたサインを手がかりに、制作者本人や親族を探し出すことができました。将来的にはインタビュー調査を行う予定です。人形資料を紹介した「もの語り」の可能性についてお話しします。

(受付10時から)

会場 講堂およびセミナー室、本館展示場内

※参加無料(事前申込制、当日参加可)

お申し込み・お問い合わせ先

情報企画課 FAX 06-6878-8242

●日本展示学会賞受賞作品賞受賞

本館展示新構築「アフリカ」「西アジア」及び特別展「ウメサオタタオ展」が日本展示学会第4期学賞受賞作品賞を受賞しました。

※各イベントについて詳しくはホームページをご覧ください。

※電話でのお問い合わせの受付時間は、9時から17時(土日祝を除く)です。

■上羽陽子 監修

『世界のかわいい民族衣装』

誠文堂新光社 定価：1,890円

民博の膨大な資料の中から、「かわいい」をキーワードにセレクトした44の国と地域の約65種類の衣装を掲載。地域によって異なる美しい民族衣装のデザインや様々な手法で作られた刺繍、織物、染色などの細部までたくさんの写真とともに堪能できる。民博教員によるコラムも掲載。



刊行物紹介

■鈴木紀・滝村卓司 著

『みんなく 実践人類学シリーズ 8 国際開発と協働』

「NGOの役割とジェンダーの視点」

明石書店 定価：5,250円

協働とは、公共サービスの分野で異なる主体が協力することです。本書は国際開発におけるNGO活動と「ジェンダーと開発」分野での実践に焦点をあてた論考を収録し、協働の実態やその課題を明らかにします。

